

あらよう通信

熊本県立荒尾養護学校
特別支援教育
センターだより No.19
平成23年10月31日

荒玉地域特別支援教育セミナー開催



全体会 (10:00~11:55)

8月2日(火)に荒玉地域特別支援教育セミナーが玉東町中央公民館・玉東中学校において開催され、200人近くの保護者や教育・福祉等関係機関の方々の参加がありました。

講師は、アスペルガー症候群当事者の大森佑介さんで、自らの実体験に基づき、「発達障がいの理解と支援」について、九州看護福祉大学の学生さんと会話も交えながら、わかりやすくお話をいただきました。

大森さんの場合は感覚面では、水中は水がまとわりつくような感覚があり、水泳の授業では我慢を越える辛い思いをされたり、コミュニケーション面では音が一定の大きさで入ってくるため、話している方とは別の方たちの話まで同じ声の大きさで耳に入って、疲れも感じやすいということでした。症状を知り、理解してくれる先生・支援者が側にいることで、子どもたちはもっと過ごしやすい学校生活を送ることができるのだと考えさせられる内容でした。

アンケート集計では「どのような感じ方をしているか完全に理解することは難しいかもしれないけど、しっかり寄り添っていけたらと思いました。」など貴重なご意見をいただき、来年のセミナーがより充実したものになるよう繋げていきたいと思えます。



(講演会の様子)



○荒玉地域特別支援教育セミナー講演内容

(演題)

「発達障がいの理解と支援」

講師：久留米市子ども未来部 幼児教育研究所
非常勤職員 大森 佑介様
助手 九州看護福祉大学 看護福祉学部
社会福祉学科学生 高木 麻佑・麻生 英里様



大森さん(写真左)は特性により、朝は気持ちが落ち込んでしまうそうですが、今回は朝から講演ということで、モチベーションを上げようとパンダの帽子を被ってお話してくださいました。

分科会 (13:00~16:00)



午後は8つの各分科会に分かれて、話題提供者からの事例について話し合ったり、グループごとに問題提起をしながら情報を交換して内容を深めたりと、充実した時間になりました。



分科会の様子

○荒玉地域特別支援教育セミナー 分科会内容

- ① 「校内支援体制の実際」
- ② (演習) 「事例会議」
- ③ 「特別な支援が必要な子どもたちの理解と支援」
～幼保小の移行支援～
- ④ 「 // 」～小中の移行支援
- ⑤ 「 // 」～中高の移行支援
- ⑥ (演習) 「授業づくり(教材教具づくり)」
- ⑦ 「保護者・関係機関との連携」
- ⑧ (演習) 「アセスメントの実際」

今回セミナーを開催するにあたって、講師や分科会での話題提供者、司会、記録、アドバイザー、会場係を担当して下さった皆様には大変お忙しい中、打合せから会場設営等、運営に御協力をいただきました。先生方の御協力御支援のもと今回のセミナーを無事開催することができ、本当にありがとうございました。

コラムNo.2

～子ども理解と支援～

子どもへの対応が困難だったり、思うように改善されないと、つい感情的になりがちです。その結果、子どもの心を傷つけたり信頼関係が崩れたりします。

☆ 「ちゃんとやりなさい!」と言うのは「ダメだ」と言うのと同じです。

→○ どう見えているのか、何が困難なのかを、子どもの立場で考える。

☆ 特に自閉症、アスペルガー症候群の子どもに予定にないことをさせるのは不安のもとです。

→○ 予定を視覚的に伝える。変更は事前に伝える。

☆ 「～が守れないなら〇〇しないよ」などと強い調子でおどしたり、対価を与える取り引きをする。

→○ ちょっと頑張ったらできる、具体的な目標を設定し、できたらほめる。お金や高価なものでつらないで、一緒に遊ぶなど形のないものや楽しみの方がよい。

かがやく学校 かがやく子ども 応援します

熊本県立荒尾養護学校

担当者：浦上 美穂

〒864-0032

荒尾市増永西長浦2299-3

(TEL) 0968-62-1131

(FAX) 0968-69-1064

<http://www.edu-c.pref.kumamoto.jp/sh/araoyogo>

